



令和元年度 市民と市長の意見交換会 ふれあいトーク・レポート

大塚中学校区 令和元年6月20日(木)開催

ふれあいトークは、市長が市民の皆さまと地域の課題や市政について直接意見を交わし、課題解決に向けての方向性や具体的な方策を確認することで、地域と行政の相互理解を深めるとともに、市民目線での市政運営を進めることを目的に開催しています。

◆令和元年度のトークテーマ

トークテーマ ～子どもたちの未来のためにできること～

トークの柱 『将来、子どもたちがふるさと大塚に暮らしてみたいと思う（思わせる）町づくり』

10年目を迎えた市長と市民の意見交換会「ふれあいトーク」。今年度からはトークテーマを「子どもたちの未来のためにできること」とし、子どもたちの「教育」について各中学校区単位で意見交換を実施しています。

◆市長から情報提供 とことん住みやすく、力強く発展するまちづくり

●地域の現状等を共有

①宮崎市でも人口減少が進んでおり、今後さらに人口減少が加速する見込みです。

- ・宮崎市全体の人口推移 令和元年 402,415人 ⇒ 令和42年 291,719人 (27.5%減)
- ・大塚地域自治区の人口推移 令和元年 20,804人 ⇒ 令和42年 15,574 (25.1%減)

②若い世代の転出超過が大きくなっています。そのため魅力的な雇用創出と地元で活躍できる人材育成に取り組んでいます。

- ・宮崎市の年齢別の転入転出数をみると、15～19歳、20～24歳で大幅な転出超過となっています。
- ・市ではそのような現状に歯止めをかけるべく、企業誘致による新たな雇用の創出や、中学生を対象として県内企業を紹介する体験型進学・就職イベントなどを実施しています。

③人口減少が進むことで、地域の課題がより複雑化、多様化しています

- ・人口減少のスピードや高齢化率、歴史・文化は地域によって異なるため、それぞれの地域の特性に合ったまちづくりが求められています。

④地域には様々な組織や団体、行政機能があります。それぞれ連携し、特性を生かしたまちづくりを行いましょう。

⑤地域活動への参加で、元気な地域コミュニティを次の世代につなげましょう。

- ・大塚中学校区での活動例…おおつか歩こう会、大塚小大塚音頭指導、江南小環境学習 等



▲大塚中学校区の現状や課題、市が現在取り組んでいる施策などについて、市長が説明

◆ フリートーク

● トーク参加者からの意見

- 大塚地区は交通の便が良く、衣食住そろっていて住みやすい。県外から戻ってきたときに地域の良さがよくわかる。小さな子どもを遊ばせるような大きな公園があるととっても良い。
- 地域の人たちが子ども達の見守り活動や安全パトロールをしてくださるので、安心して子どもを学校に通わせることができる。
- 大塚地区は「人」が良いと思う。地域内で各団体が協力し合って活動できている。
- 自分が率先して積極的に地域活動をしている。中学生が大人になったときに大塚に戻ってきてほしい。
- 住民一人一人が、「地域の人」になりきることが大切だと思う。その地域について精通することで新しい知恵が湧いてくる。その上で話し合うことが大事。
- 地域の課題解決はハード面に目がいきがちだが、まずは自分達の町は自分達でつくるという当事者意識をもつことが大事だと思った。



● 中学生からの意見

- 病院が多く子育てしやすい町だと思う。足りないのは、交通面の意識。学校で交通安全の集会を行うが、全員が意識を高めてほしい。
- 学校から帰るとき、外灯が少ない道がある。周囲に大人がいてくれると安心する。
- 「安心安全なまち」という雰囲気づくりが大事と思う。ごみ集積所が汚かったりすると、危険なイメージがついてしまう。そこで、大塚中では登下校中にごみを拾う「トコトコ作戦」を行っている。きれいな町にすることで、安全な町をPRできる。
- 最近の子ども達は外で遊ぶことが少ない。大塚の自然と触れ合えるようなイベントがあるといいと思う。「歩こう会」の際に、みんなで外でお茶やお菓子を食べるようなことをしたらいいのではないかな。



● 傍聴席からの意見

- 自分の地域では井戸端会議が少ない。それだけ高齢者の孤立化が進んでいる。子ども達と世代を超えた交流ができると良い。

● 市長からの回答、感想

- 大塚地域は生活の利便性が高いだけでなく、人づくりに積極的な地域と感じた。地域の安全面で防犯灯の設置が少ないという意見があったが、トークの中で説明があったとおり、自治会を通して要望すれば補助金等が適用されることもある。地域としての要望があれば、自治会等を通してぜひ市に届けてほしい。
- これからの宮崎を背負って立つ人材づくりを進めていく中で、地域・学校・家庭をつなぐことが大事と考える。市としても積極的に介入していきたい。
- 地域の高齢者の孤立化の話があったが、他の地域では、中学生が年賀状を書いて地域の高齢者に渡すという取り組みをしている学校もある。これ以外の方法でもいいので、地域と関わっていくアイデアを中学生にぜひ考えてもらいたい。

～参加者アンケートより～

- ★中学生も途中から自分の意見を発信できて自信をつけられたと思います。大人の話を聞いて学校でも広めてくれると感じました。
- ★トークの内容を参加していない地域住民にも知ってもらい共有化したい。地域住民全員が考えていくべきことだと思う。何らかの形で広報してほしい。大人と生徒の交流の場（意見支援）を今後も計画してほしい。又は地域でも考えたい。若者の意見をもっとまちづくりに生かしていきたい。

〈お問い合わせ〉

宮崎市 秘書課広報広聴室
TEL 21-1705
FAX 29-6547

